

佐藤公敏川根本町長が語るこの町のこれから

Monthly Pickup
新たなまちづくりへのスタートライン

りません。磨き上げ、つなぎ合わせることで、川根本町そのものを一つのブランドに仕上げていくことが大切だと考えています。これら資源を磨き上げ、つなぎ合わせることでできるかどうかは、人々の思いや意思、情熱など、すなわち「人間力」にかかっているといえます。この人間力は、ここに生きる人の力だけではありません。外の力、つまり交流や連携によって得られる町外の人たちの力も重要であるということなのです。

問題・課題を解決するヒントは、現場にこそ転がっている

まずは、町の人たちが普段どんな暮らしをしているのか、その現場をしっかりと見つめるところからスタートしなければならぬ

住民総参加のまちづくりを目指し皆さんと共に町政を進めます

と考えています。数々の課題を解決していくヒントは、現場にこそ転がっているのですから。また現場から積み上げていくことにより、住民が自ら参加する意識が芽生え、向上し、住民参加の図式ができ上がり、地域や町の未来の活路が開けていくと思っています。

役場は住民満足度を高めるという基本に立ち返る

これからは、役場も変わらなければなりません。現在継続して進めている行政改革。この行革自体は、行政の無駄を無くすという目標のもとで、今後も進めていかなければなりません。しかし必ずしも「行革イコール歳出削減」ではないと考えています。行革という、どうして

も「予算をいくらか削減できたか？」という方向に見方がかたよっているように見られがちです。

しかし行政改革の基本は、「行政サービスの向上」、そして「地域住民の皆さんの満足度を高めていくこと」そういった考えのもと、改めて行政改革を考えていきたいと思っています。

まずは、役場全体が町民の皆さんをお迎えするという心を養っていきたい。わたしの印象として、今まで役場を訪れた際、必ずしも役場の雰囲気が良いとは思えなかったからです。

町民の皆さんは些細な相談ごとであっても、かなり緊張して役場に来られます。来庁時、少しでも気分良く役場に入れるよう、庁舎内の風通しを良くする、わたし自身も職員とコミュニケーションを積極的に図つ

ていくように努めます。

町民の皆さんが気軽に来庁できる、そんな役場にしていきたい。それが、町民の皆さんの満足度を高める第一歩だと考えています。

1回でも多く現場に出向き、皆さんと話し、活かしていく姿勢を

町民の皆さんが何をどう考え、悩んでいるのか、しっかりとつかむ必要があります。そのため、行政はできるだけ現場に出向き、地域の皆さんとしっかり話し合いをすることが必要です。

そしてそれを、どのような形で町の施策として表現していくのかを考えられる体制をつくっていきたいと考えています。

本町の課題は決して少なくありませんが、住民総参加のまちづくりを目指して、皆さんと共に、自信と誇り、そして責任を携えて町政を進めてまいります。